

あなたのなりたいを現実 to !!



東京アカデミー

公務員を目指されている大学生・社会人のみなさまへ

～学習開始前に昨今の大卒程度公務員試験について知ろう～

TOPIC①：激変を遂げつつある大卒程度公務員試験

TOPIC②：試験内容の簡素化・複線化

TOPIC③：試験日程の分散

TOPIC④：年齢制限の緩和と合格有効期間の延長

TOPIC⑤：多様化する受験プラン

TOPIC⑥：「教養試験」の現状と対策

TOPIC⑦：「専門試験」の現状と対策

TOPIC⑧：「論文試験」の現状と対策

TOPIC⑨：「面接試験」の現状と対策

TOPIC⑩：大卒程度公務員試験の現状とまとめ

激変を遂げつつある大卒程度公務員試験

大卒程度公務員試験はいま、きわめて激しい変化の時代に突入しています。社会全体に人手不足感が強まった結果、ここ数年、公務員試験の受験者も減っており、これに危機感を抱いた自治体・官庁は採用試験の平易化・複線化を柱とする大胆なリニューアルを矢継ぎ早に断行。2025年度から大幅に試験内容が変わるケースも相次いでおり、これまで語られてきた「公務員試験の常識」は、いまやほとんど通用しなくなりました。

→ネット等で試験対策に関する情報を収集しようとする場合にも、

すでに古くて意味がなくなってしまった情報があふれていることに注意

してください！

試験内容の簡素化・複線化

これまでの大卒程度公務員試験（事務職・技術職・資格職）は

教養試験＋専門試験＋論文試験

といった組合せで行われてきました。しかし、こうした従来型の試験では受験者の負担が重いので、近年は地方自治体を中心に

▶**筆記試験の科目数を減らす**

▶**従来型の教養試験を廃止し、SPI3など平易なテストに差し替える**

▶**従来型の採用試験とは別に、もっと受けやすい試験を新設する**

……といった動きが加速。現状では、「教養試験」「専門試験」といった公務員に特有の筆記試験をまったく受けなくても合格できるチャンスが大きく広がっています。

試験日程の分散

これまで大卒程度公務員試験はいくつかの決まった日程で1次試験が実施されており、ほとんどの受験生は同じような受験スケジュールで行動していました。ところが、最近では受験者数を確保するため

▶ 民間の就活に対抗し、通常の日程とは別に「早期枠」を新設する

▶ 試験日程そのものを年に複数回設定する

▶ 冬以降に「追加募集」を実施する

……というふうに年度内に何度も採用試験が行われるケースが激増、受験者側が都合のよい日程を選べるようになりつつあります。

年齢制限の緩和と合格有効期間の延長

受験できる年齢は以前に比べてかなり広がってきました。大卒程度試験であれば30代～40代でも受けられるケースは別に珍しくありません。逆に、国家公務員試験ではすでに「大学3年生（場合によっては2年生）から受けられる」試験が設けられており、各試験の合格有効期間も3年～6年まで延長されています。

（最終合格しておけば、仕事を始

める年度は受験者の都合に合わせて選べるようになっているわけです。）

最近では東京都や特別区など、地方公務員試験でも合格有効期間の延長に踏み切るケースが出てきました。こうした流れがもっと広がれば、**大卒程度公務員試験を「資格試験」のようにとらえ、とりあえず受けて合格しておく……**といった受験行動も珍しくなくなるかもしれませんね。（その兆しはすでに見えています。）

多様化する受験プラン

これまでご説明してきました、多方面にわたる変化はいったい何をもたらしているのでしょうか。

受験チャンスが増え、「受かりやすくなった」のは事実ですね。民間の就活と両立しやすく

なったのも事実。しかし、**その一方で、試験内容の多様化・日程の分散が急激**

に進んだ結果、自分に合った受験プラン・学習計画を立てるのが難しく

なっていることにも注意しなくてはなりません。（一人ひとりの志望先や現況に合わせて

カスタマイズされた戦略が求められるからです。）自分ひとりで試験内容を分析し、対策し

ようとするとかなりたいへんなので、私たち予備校スタッフと相談しながら、**自分に**

合った受験プラン・学習計画を決めていただけるとよいですね。

「教養試験」の現状と対策

従来型の教養試験では、最近、「一般知能分野」（文章理解、数的推理、判断推理など）のウェイトが非常に高くなっています。（知識分野の出題はかなり減っている。）「一般知能分野」に重点を置いた対策をとるべきです。

すでに述べたように、従来型の教養試験を廃止し、SPI3などもっと平易なテスト（検査）に差し替える動きも急速に広がってきました。なお、従来型の教養試験のかわりに用いられる平易なテストとしては、SPI3がとてもよく知られていますが、その他にSCOAやBESTなどの導入例も増えています。それぞれに特色があるので、事前に対策しておきましょう。

（試験案内には「特別な対策を要しない」と書かれていますが、真に受けてはいけません。事前に対策して臨む方が有利に決まっていますからね。）

「専門試験」の現状と対策

事務職で受ける場合、法律や経済をメインとする「専門試験」の負担はかなり大きいですね。地方自治体では近年、「専門試験」なしの試験もたくさんあるのですが、国家公務員試験（とくに専門職試験など）のように、「専門試験」をなかなか回避しにくいというケースもあります。

ただ、国家公務員試験ではいろいろな職種で今年度（2025年度）から専門試験の出題内訳が見直され、自らの得意科目を優先的に選べるようになりました。したがって、これまでに比べれば専門試験への対策もしやすくなっているのです。

「論文試験」の現状と対策

大卒程度公務員試験の論文試験は、多くの場合、オーソドックスな課題式論文となっています。対策を進める上で重要なポイントは、

★「少子高齢化・人口減少」「デジタル化（DX）」「グローバル化」「脱炭素化」

…など頻出テーマに関する知識をしっかりとインプットする

★課題式論文によく用いられる文章構成の「型」をしっかりとつかみ、「型」通りに書けるようにする。

以上の2点です。

「知識のインプット」は独学でも可能ですが、**「型通りに書く練習」については、**

予備校の指導を受けて進める方が効率的でしょうね。

自治体や職種によっては、「資料やグラフを読み取って論述する」タイプの論文試験を行っているところがあります。このタイプの論文では「読み取り」の段階にポイントがあるので、過去問に基づいた練習が必須です。

なお、自治体によっては通常の課題式論文ではなく、「自己アピール論文」など独自の論文を課すことも。こうしたケースでも、出題傾向にしっかり合わせた対策が求められます。

「面接試験」の現状と対策

従来、公務員試験では、「筆記試験（１次試験）に合格した後に面接対策をする」という感覚がふつうでした。しかし、いまではこうした考え方は非常に危険です。

というのは、以前よりもはるかに**面接＞筆記**の傾向が強まっているからです。

現在の公務員試験では１次試験で多めに受験者を残し、２次（以降）の面接試験・人物試験で徹底的にふるいにかけるスタイルが主流。また、自治体によっては、筆記試験に先立って１回目の面接を実施するようなケースも珍しくありません。

採用試験の中で最も重要で、**綿密な対策を要するのは明らかに面接**なのです。

「筆記対策」の後に面接について考えるのでは間に合いません！

「筆記対策」と「面接対策」は必ず並行して進めるべきもの。東京アカデミー池袋校では、そうした考え方で面接対策の指導を行っています。

大卒程度公務員試験の現状と最後のまとめ

すでに述べたように、大卒程度公務員試験の内容はここ数年で急激な変化を遂げており、これまでの「常識」「方法論」はもう通用しません。試験内容の多様化や試験日程の分散が進んだ結果、すべての受験生に当てはまるような学習プランは存在しなくなったのです。

こうした状況では、一人ひとりの受験生が状況を冷静に見極め、

自分（だけ）に合った合理的な計画を立てていくこ

とが何より重要になります。

受験について不安や心配事があるみなさんは、ぜひ気軽に相談してくださいね。
あなたに合ったプランを立てるお手伝いをさせていただきます！

最後までご覧いただき誠にありがとうございます。ぜひ皆様の受験の一助となれば幸いです。